

平成26年11月16日(日)

保健・医療・介護連携推進シンポジウム
『埼玉県の歯科・口腔の保健医療に関わる
多職種連携推進を考える』

パネルディスカッション参加団体による
プレゼンテーション資料

③一般社団法人 埼玉県薬剤師会

発表者：理事 畑中 典子

平成26年11月16日
埼玉県歯科医師会 他職種連携シンポジウム

三師会連携で作成した 手帳用ピクトグラムシール

抗凝固療法、ビスホスホネート系薬剤の
適正使用に向けて

埼玉県薬剤師会 理事

朝霞地区三師会 副会長

株式会社かくの木

代表取締役 畑中典子

お薬を正しく安全に 使用するためのシール ができました



血のシール

血液をサラサラ
にする薬を飲ん
でいる方

ワーファリン・プラザキサ・
イグザレルト・パナルジン・
ブラビックス・プレタール・
アスピリン・他



骨のシール

骨の薬 (ビスホス
ホネート系) を飲
んでいる方

飲み薬：アレンドロン酸・フォサマック・ボナロン・リセドロン酸Na・
アクトネル・ベネット・ポノテオ・リカルボン・ダイドロネル・他
注射薬：テイコック・ボナロン・ソメタ・パミドロン酸二Na・アレディア・他



おくすり手帳は医師、歯科医師、薬剤師に見せましょう。
手術や抜歯の時には、この手帳が役に立ちます。

この事業は朝霞地区三師会連携事業として医師・歯科医師・
薬剤師が地域で協力して行っております。

作成のきっかけは

2012年9月に行われた朝霞地区医学会において「抗凝固薬について」というテーマで会場のオーディエンスを交え、医師、歯科医師、薬剤師がパネルディスカッションを行った

抗凝固療法実施中患者の安全と
安心の為、三師で連携が取れるようなツール
があれば…

医師

抗凝固薬中止に伴う血栓、梗塞等の発症は致死状況招くリスクにもなる。
できる限りの継続投与が望まれる。

歯科医師

抗凝固薬中止をしなくても抜歯は可能だが、一定の検査値をクリアしていることが必須。

薬剤師

抗凝固薬処方調剤時のチェック事項として、残薬数・検査値等の情報を確認したい。

まず、薬剤師会が動きました

薬物治療の安全と安心を確保するのは私たちの役割

- ①三師で連携が取れるようなツールを作成する
- ②その普及、推進方法について検討する

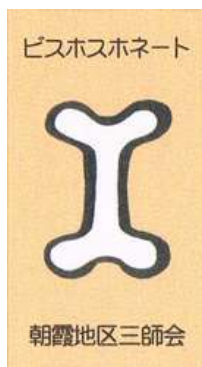
第1回 連携ツールの検討会

- 1) お薬手帳を利用したい
- 2) 手帳を見たらすぐわかることが大切
- 3) 連携には処方医名や連絡先もわかりやすく

検討する中で、実はこっちも重要という意見が出て・・・

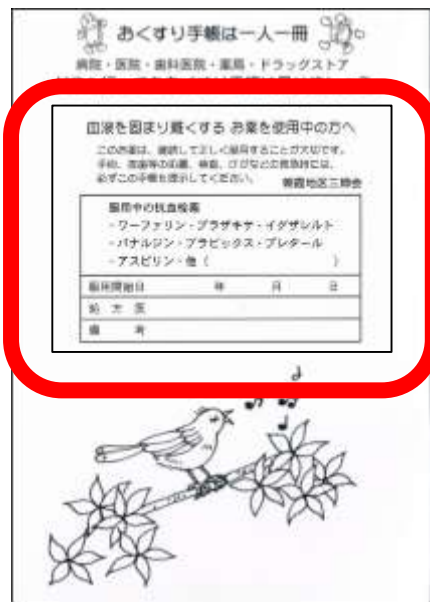
BP製剤による顎骨壊死も、情報の共有が大切

⇒連携が必要と考え、同様にピクトグラムでツールを作成した



BP製剤使用中シール (骨のシール)

口腔ケアの
指導が重要



作成したツールは左記の
ように、お薬手帳の表紙
及び裏表紙に貼付する

普及と推進についても検討会を重ねて

地区薬剤師会内にピクトグラムシール普及部会を設立。

2～3カ月に一度会議を行い、ピクトグラムシールの運用方法、普及、推進方法について検討した。

これまで

- ① 朝霞地区医師会、朝霞地区三師会、薬剤師会が開催する勉強会、講演会、等で繰り返し説明会を行った
- ② 日本薬剤師会学術大会、(一社)埼玉県薬剤師会学術大会、(一社)所沢市薬剤師会学術講演会など、広くこの事業について講演・発表を行った
- ③ 病院・医院・薬局への掲示用ポスター作製



待合室に掲示してもらいました

薬剤師がすべきこと

- お薬手帳の表紙、裏表紙にピクトグラムシールを積極的に貼付する

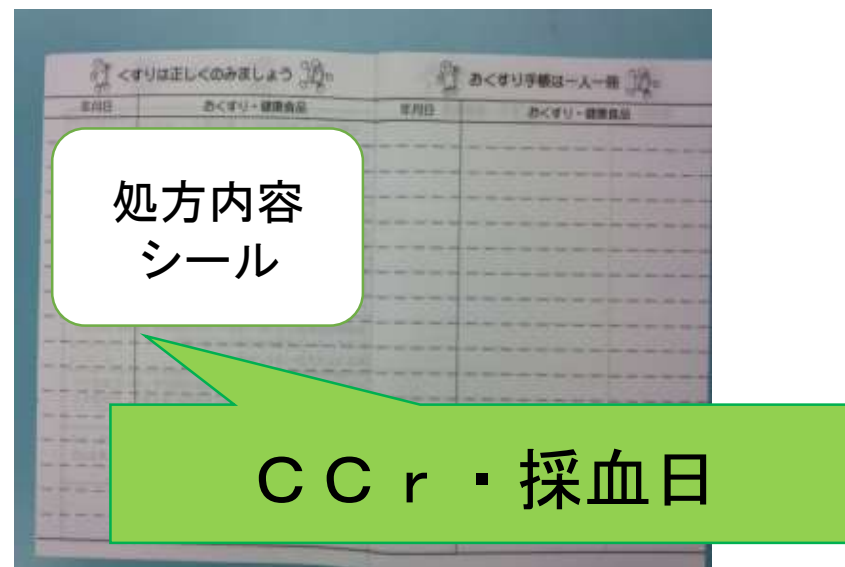
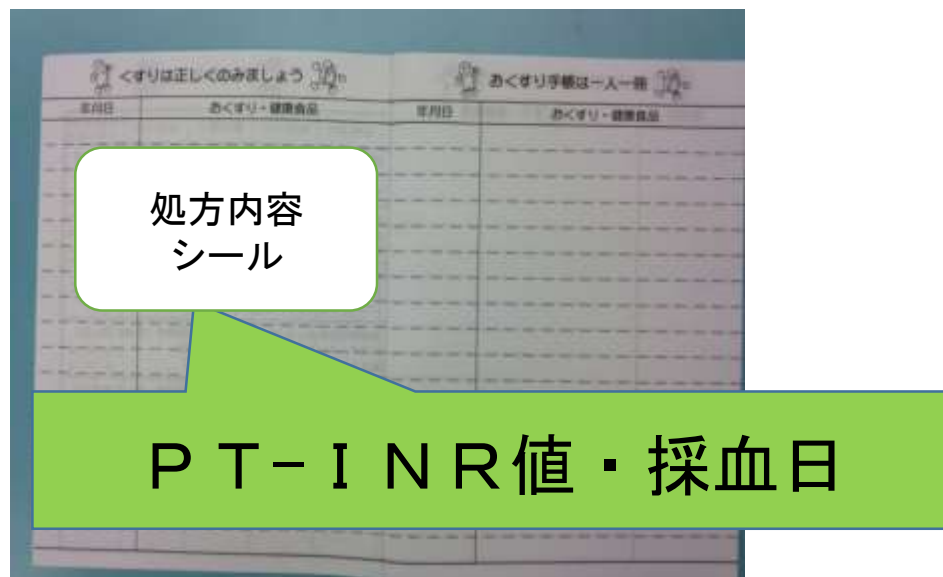
検査値確認の啓発

- ワーファリン服用患者から、検査値(**PT-INR**)を聴き取りお薬手帳に記載
- 抗トロンビン阻害薬、Xa阻害薬服用患者から、検査値(**血清Cre又はCcr**)を確認し、お薬手帳に記載

- BP製剤服用患者⇒可能であればピクトグラムシールに
初回投与日を記載

医師・歯科医師がすべきこと

- 1) 薬剤師が貼付、記載したシール、検査値を確認
- 2) 患者に必ず検査値を告知、提示する



こんな声かけがうれしいです

検査結果は薬局で薬剤師さんに見せておいてね

良かった点

- 患者側からの問い合わせがあり、患者自身の薬に対する意識及びリスク管理の向上がうかがえ、それに伴いお薬手帳の持参率につながる
- 多職種からの問い合わせがあり、医師・歯科医師だけでなくコメディカルでの連携が期待できた
- 薬剤師が検査値を意識して安全管理を行うきっかけとなった

改善点

- 患者が治療に対して不安を持ってしまった
- もっとも影響の大きいBP製剤の静脈投与を見落としがち

お薬手帳は医療情報を共有する唯一**患者が携帯する「カルテ」**です。
患者の安全と安心の為、お薬手帳を利用した、ピクトグラムシールを医療情報共有のためのツールとして、地域から全国に広めていきたい！！